

C-5

Multiplex PCR 日本での臨床応用 費用対効果の観点から

北野泰斗
奈良県立医科大学 小児科

Multiplex PCR は欧米では広く臨床の現場で用いられ、迅速で正確な病原体診断や医療費の削減に寄与している。日本では、主に血液培養において臨床で使用され始めているが、呼吸器や髄液検体などでは臨床応用が遅れているのが現状である。ただし、新しい検査を導入する際にはその国の疫学・医療システムを考慮して、新しい検査を導入するコストに見合う利益があるかを検討する必要がある。日本において特に小児領域では、呼吸器感染症の診断には迅速抗原検査が広く用いられており、この迅速抗原検査と Multiplex PCR の比較検討が必要である。本セミナーでは、Multiplex PCR 検査の臨床応用について、検査の概要・諸外国のデータの紹介・日本での現状・奈良県総合医療センターでの Multiplex PCR 呼吸器パネル使用のデータ・今後の展望などについて紹介する。

奈良県総合医療センター小児科では、2018年3月から入院を要する中等度以上の呼吸器感染症の病原体診断に、従来の迅速抗原検査の代わりに Multiplex PCR 呼吸器パネルを使用している。当小児科での呼吸器感染症による入院例について、迅速抗原検査を行って加療を行った群と Multiplex PCR 検査を行って加療を行った群との比較検討を行った。評価項目は抗菌薬処方期間、入院期間、来院から検査結果が出るまでの時間、病原体診断率、費用対効果とした。

これらの迅速抗原検査と Multiplex PCR の費用対効果の検討を行った。